

工場・事業所での環境負荷低減

工場における包括的な環境保全活動を推進し、地球環境に配慮したものづくりに努めます。

工場・事業所での環境負荷低減活動

富士通グループは、事業活動で使用する材料やエネルギー使用量の削減や、事業活動に伴って発生する化学物質や廃棄物、大気汚染物質の排出量の削減と、製造コストの最小化活動に取り組んでいます。

また、法規制の遵守や、環境リスクの未然防止を包括的に推進しています。

製造工程での取り組み(グリーン・プロセス活動)

製造工程での省エネ、化学物質使用や廃棄物の削減を行うためにグリーン・プロセス活動を推進しています。グリーン・プロセス活動では、資材の投入や化学物質の使用、エネルギー使用などの適正化(コストダウン)や環境負荷の低い代替品への切り替えを行い、製造工程で発生する環境負荷(廃棄物、化学物質の排出、エネルギー使用)を低減していきます。活動にあたっては、富士通グループ独自のCG指標※1を製造工程で使用する資材や化学物質、エネルギーに設定して優先順位と目標値(計画値)を決め、PDCAサイクル(四半期ごとに)を当てはめて活動しています。また、取り組み施策は製造技術や工程自体の見直しから作業者の日々の改善まで多岐にわたっています。2006年度は、従来の活動に加えてより生産革新活動※2との連携を深めた活動への展開を進めています。

※1 CG指標(コスト・グリーン指標)

生産量あたりの投入量×単価×環境影響度(10段階分類)

※2 生産革新活動

富士通グループでは、2003年より全社活動としてトヨタ生産方式の導入・展開による生産革新活動に取り組んでいます。

試験工程の見直しによる電力削減(CG指標:18%減)

(株)富士通ITプロダクツでは、サーバ、ストレージ、イメージスキャナなどを製造出荷しています。同社では、グリーン・プロセス活動の実践を通して、環境負荷の低減に努めることを目標に掲げ、その取り組みの一つとしてストレージ製品の試験工程の見直しを行いました。これまで、ストレージ製品は顧客の要求する構成に組み立てる前に、構成部品(ハードディスクや制御装置)の試験を個別に行っていましたが、見直した結果構成部品を機能ブロックごとに組み立てた後、試験することができ(生産革新活動との連携)、使用電力が月あたり18%削減できました。この結果、月あたりCG値は18%削減、コストは18%削減となりました。

化学物質管理の方針

化学物質管理に関する基本的な考え方

富士通グループでは、化学物質管理の方針として「有害な化学物質の使用による自然環境の汚染と健康被害につながる環境リスクを予防する」ことを定め、事業所毎に排出量の削減や適正管理に努めています。

また、2006年度にはこれまで運用してきた化学物質管理システムの機能を強化し、化学物質の登録・管理作業の効率化を図りました。

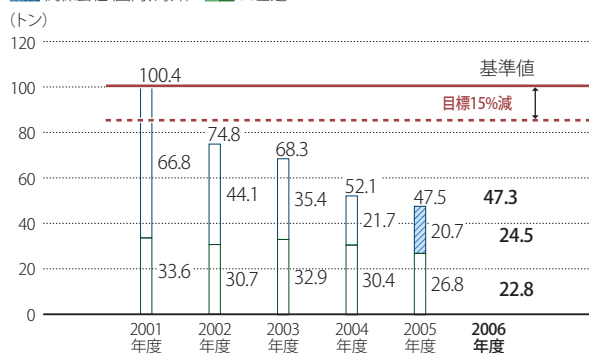
2006年度の実績

富士通グループは、第4期環境行動計画において、事業所から発生する化学物質排出量を2006年度までに2001年度比15%削減する目標を掲げ、2004年度に前倒して達成しています。

2006年度はPRTR対象物質の適正管理の徹底、製造プロセス見直しのほか、半導体工場において有機溶剤回収装置を設置するなどの削減施策を実施し、その結果、グループ全体での2006年化学物質排出量は47.3トンで、2001年度比で53%の削減となりました。

PRTR対象物質排出量

■ 関係会社(国内、海外) ■ 富士通



廃棄物発生量の削減

廃棄物発生量削減に関する基本的な考え方

富士通グループでは、資源循環型社会をめざして3R (Reduce:発生抑制、Reuse:再使用、Recycle:再資源化)を推進するという基本方針のもと、より高度な3Rへの取り組みに向けて、社員一人ひとりが廃棄物の分別を推進しています。

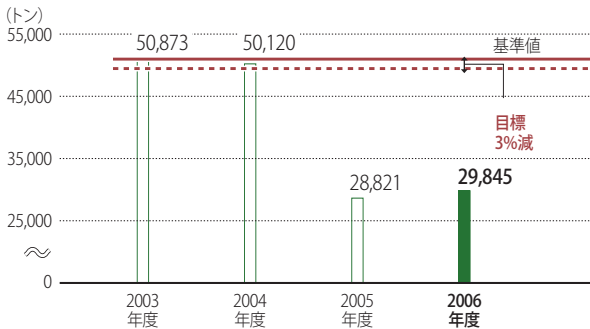
2006年度の実績

富士通グループは、第4期環境行動計画において事業所から発生する廃棄物を2006年度末までに2003年度実績比3%削減する目標を掲げていました。

2006年度のグループ全体での廃棄物発生量は29,845トンとなりました。2003年度比では41%削減となり、第4期環境行動計画の目標を達成しました。達成要因としては、紙の有償化や無機汚泥の有償化に取り組んだ結果もありますが、事業再編も削減の大きな要因となっています。

しかしながら、2006年度実績を前年度実績と比較すると、半導体工場の増産などを背景に、3%増となっています。

廃棄物発生量推移



※ 集計対象：富士通12拠点、グループ27社

国内グループ会社におけるゼロエミッション*達成状況

富士通グループは、国内グループ会社におけるゼロエミッション活動を推進しています。2003年には富士通においてゼロエミッションを達成。グループ会社においては2004年度までに1事業所を除くすべての国内グループ会社でゼロエミッションを達成し、以来、ゼロエミッションを継続していました。しかし、前年度より1事業所にて課題となっていた浄化槽汚泥について、さらに富士通の1事業所、グループ会社の2事業所にて、水質規制を遵守するための浄化槽設備の構造上の理由などにより、これまで実施していたバイオ処理を中断したため、2006年度は4事業所にてゼロエミッションを達成できませんでした。引き続きこの事業所における浄化槽汚泥のゼロ化をめざす検討を継続的に行っていきます。

以上のような結果となっていますが、浄化槽汚泥を除き、富士通では2003年度に、グループ会社では2004年度にゼロミッションを達成し、それを継続しています。

※ ゼロエミッション

廃棄物の有効利用化100%化による、埋め立て、単純焼却ゼロ。

第5期環境行動計画目標について

グリーンファクトリー、グリーンオフィス制度の適用

富士通グループは、これまでの「グリーンファクトリーコンセプト」の具体化として、事業所における環境配慮レベルや自主的な取り組み状況を総合的に評価し、「見える化」を図る活動を新たに開始します。2009年度末までにすべての事業所において、グリーンファクトリーまたはグリーンオフィス制度で「二つ星(★★)レベル」以上を達成することを新たな目標として掲げました。これは、製造工場のみならずオフィス部門へも適用するもので、総合評価における認定レベルへの達成 および改善向上に努めます。

化学物質の削減

業界の指針より一年前倒しとなる2009年度末までにVOC(揮発性有機化合物)対象20物質の年間排出量を2000年度比30%削減するという目標を掲げました。

この目標の達成に向けて、電子デバイス系工場に設置している有機溶剤回収装置のプロダクト系工場、グループ会社への導入拡大や、その他の工場において洗浄工程の変更、有害性の低い代替物質への変更などの取り組みにより、排出量の削減を実施していきます。

廃棄物の削減

第4期環境行動計画に引き続き廃棄物の発生量削減を目標としています。目標値については事業再編の影響の少ない2005年度を基準年度とし、2009年度末までに3%削減するという目標を掲げました。この目標の達成に向けて、フッ素汚泥の削減や廃液(廃酸、アルカリ)の内部処理化を検討し目標達成を推進していきます。

お客様ののために

社員とともに

株主のために

お取引先とともに

国際社会・地域社会とともに

地球環境のために